

## 令和6年度【大田区立東調布第一小学校・図画工作科 授業改善推進プラン】

### ◎ 小学校 図画工作科における分析

児童の実態	知識・技能	<ul style="list-style-type: none"> <li>造形活動に関心をもち、意欲的に取り組んでいる。また、どのような題材においても自分の思いを表わそうと工夫したり考えたりしている。</li> </ul>
	思考・判断・表現	<ul style="list-style-type: none"> <li>材料などを基に発想したり、想像をふくらませたりしながら形や色、つくり方などを考えている。</li> <li>発想が苦手な児童も、タブレットで調べたり教師の見本作品を参考にしたりして、工夫や自分の思いを表そうとしている。</li> <li>友達の作品にも興味関心をもっており、互いの作品の違いや面白さを見つけたら表現の意図などを伝え合おうとしたりしている。</li> </ul>
	主体的に学習に取り組む態度	<ul style="list-style-type: none"> <li>自分の思いや考え、工夫を表すために、前年度までの学習や経験を生かしたり材料や道具の特徴を考えたりしながら取り組んでいる。</li> <li>タブレットを自由自在に使いこなしている。</li> </ul>

### ◎ 図画工作科の課題

- ◆ タブレットで検索する前に、一人一人が自分でアイデアを考えるよう具体的な声かけや児童への提案が必要である。
- ◆ 材料の特徴や技法の効果などを知るために、段階を踏んで取り組ませる。

### ◎ 図画工作科における昨年度の授業改善推進プランの検証

- 取り組みにおける成果◇と課題◆
- ◇ 新しい材料や技法を取り入れた題材を設定するなど、児童の発達段階や実態に合った題材を選び、進度が違う児童にも対応できるように、さらに発展させる方法を準備しておき、全員が意欲的に授業に臨むことができるようにする。また、教師が自ら見たり作ったり体験したことを紹介することで、様々な造形的な物事へ興味関心をもたせるようにする。
  - ◇ 自分や友達の作品のよいところや面白いところ、工夫しているところ、自分らしさや友達らしさなどをさらに見付けられるようにするために、見る視点を提示する。また、児童自身が相手に伝わる表現ができるように、児童一人一人の作品のよいところや工夫しているところなどを教師が認め、児童に伝える。
  - ◇ 学習の流れを掲示し、児童が見通しをもって作品を作ることができるようにすることができた。
  - ◇ タブレットを自由自在に扱える児童が多かった。
  - ◆ 自分でアイデアを考える前にタブレットで検索をしてしまう児童が多い。

### ◎ 図画工作科の具体的授業改善案

- 豊かな発想ができるよう、アイデアを練る時間を確保する。また、発想が浮かばない児童には、参考となる資料をみせる、会話の中からアイデアを引き出すなど支援をする。一人一人の様子を見ながら具体的な声掛けをして、児童の実態を把握するとともにそれぞれのよさが引き出せるようにする。
- 自分の思いや考えを表すことができるように、毎回の授業で材料や道具を発達段階に応じて使いこなせるように指導することで、全員が意欲的に活動できるようにする。